

# 岡山大学大学院環境生命科学研究科概要

## 目次

研究科長からのメッセージ	1
理念・目的・目標	2
研究紹介	3
入学に関する情報	13
アクセス	14
問い合わせ先	14

## 研究科長からのメッセージ



環境生命科学研究科長  
舟橋 弘晃

環境生命科学研究科は、自然科学系総合大学院として昭和62年4月に誕生した自然科学研究科から、文理医融合型大学院として平成17年4月に環境学研究科が独立した後に、「今日の爆発的人口増加に直面する人類社会の喫緊的課題である“環境と食料”について、総合横断的に解決する教育研究の場を創造する」ことを目的として、自然科学研究科の農学系分野と環境学研究科が平成24年4月に再合流して誕生しました。この目的を達成するために、本研究科は、基礎学部である環境理工学部と農学部だけでなく、資源植物科学研究所や医学系の教員が所属し、2専攻（環境科学専攻、農生命科学専攻）10講座（都市環境創成学講座、農村環境創成学講座、環境生態学講座、人間生態学講座、持続可能社会形成学講座、物質エネルギー学講座、生物機能化学講座、植物ストレス科学講座、植物機能開発学講座、動物機能開発学講座）に極めて幅広く多様性のある専門分野を構成しています。

その中で、(1) 物質エネルギー変換を含む基礎的な自然・社会・生命現象の解明と応用、(2) 社会基盤と生存環境の創出、(3) 環境負荷を考慮した食料の需給バランスの継続的維持など、に関する教育と研究が活発に行われています。この特色ある取り組みの中で、(a) 生活環境と自然環境との調和による快適な循環型社会を構築するとともに、(b) 人類の生存基盤である持続的食料生産を実現する、複眼的視野と高度な専門能力を有する先導的人材育成と世界を先導する様々な研究活動が行われています。本研究科では、前者に関連する専門的教育研究を主に環境科学専攻が、後者のそれを農生命科学専攻が担当するとともに、この両者を横断した種々の教育科目や教育研究プロジェクトだけでなく、他研究科と連携した医農融合教育及び異分野融合研究などを通して、学際的専門能力の教授にも努めています。これらの教育研究活動を通して、これまでユネスコチェアを持ち大学のESD推進の旗手としての役割を果たすとともに、現在、岡山大学が社会との共通言語として教育研究および社会貢献活動に取り組んでいる持続可能な開発目標（SDGs）への取り組みに対しても、大学の先導的な役割を担っていると自負しています。

“環境と食料”の課題は、わが国だけでなく、アジア・アフリカ諸国など世界各国で山積しています。世界のリーディング大学と伍して、教育・研究・社会貢献で創造的知性を牽引する大学を目指す岡山大学の一員として、本研究科は、地域社会や世界の国々との密接に連携した実践的な教育研究を通して、国際的視野を持つ“グローバル”（Think globally, act locally）な人材育成を目指しています。留学生受け入れや日本人学生の海外フィールドへの派遣、国際学会での成果発表の奨励などにも注力しています。今後も、国内外から呼び込んだ多くの学生が教員とともに没頭できる魅力ある研究プロジェクトや教育プログラムの開発に引き続き取り組み、環境生命科学を開拓するAcademiaとして、地域・国際社会に貢献していきます。

一人でも多くの学生の皆さんが、私たちが用意する“Global Gate for Learning”をくぐり、そのゲートの向こう側にある多様なフィールドで様々な課題に積極的に取り組み、自ら気づき、学び、解決する術を見出す喜びを実体験してくれることを願っています。また本研究科修了後は、各自が得たその一燈を掲げて、地域・国際社会で存分に活躍し、一隅を照らせる人材として大きく羽ばたいてくれることを心から期待しています。